

MEMBERS

・ゲスト・コンサートマスター

執行恒宏
Tsunehiro Shigyo

・ヴァイオリン

・コアマメンバ

荒井ひかる◎
Hikaru Arai

安藤真奈◎
Mana Ando

池田聖香
Seika Ikeda

岩崎朱里
Akari Iwasaki

上原帆海◎
Honoka Uehara

岡部沙也香
Sayaka Okabe

小椋小野花◎
Sayaka Ogura

古閑奏絵◎
Kanae Koseki

小林絵莉奈
Erena Kobayashi

穴戸育実
Ikumi Shishido

田尻彩乃
Ayano Tajiri

辰巳真菜
Mana Tatsumi

原麻美子
Mamiko Hara

的場ゆきえ
Yukie Matoba

山本菜奈
Kanna Yamamoto

・レジデント・プレイヤー

北島佳奈 (05.9-09.8在籍)
Kana Kitajima

榎本樹音
June Hitsumoto

吉田みのり
Minoru Yoshida

・アフィリエイト・プレイヤー

大竹貴子 (05.9-09.8在籍)
Takako Otake

・アソシエイト・プレイヤー

岸 菜月
Natsuki Kishi

・エキストラ・プレイヤー

山田 ななを
Nanao Yamada

・ヴィオラ

・コアマメンバ

加藤星南
Seina Kato

ソフィア・サン◎
Sophia Sun

田中 玲
Rei Tanaka

チャン・ソヒョン◎
Sohyun Chung

チョ・ウソク◎
Woo Seok Cho

ホー・チアンフイ
Qian Hui Ho

・レジデント・プレイヤー

金田 滉司
Koji Kanada

・エキストラ・プレイヤー

山村 侑
Yu Yamamura

・チェロ

・コアマメンバ

相浦 薫
Kaoru Aiura

ゆりあ・島貫・シュトゥッレル◎
Júlia Shimanuki Stuller

フィオナ・チェン◎
Fiona Cheng

ウルフ・ハッシンガー◎
Wolf Hassinger

濱田 遥◎
Haruka Hamada

・アフィリエイト・プレイヤー

佐々木賢二 (17.9-21.8在籍)
Kenji Sasaki

・コントラバス

・コアマメンバ

本橋和樹◎
Kazuki Motohashi

ヤオ・ジェンヤン◎
Zhenyuan Yao

・レジデント・プレイヤー

伊藤彩花
Ayaka Ito

・エキストラ・プレイヤー

水野翔子
Shoko Mizuno

・フルート

・コアマメンバ

石原小春◇
Koharu Ishihara

シン・イェジ
Yeji Shin

・エキストラ・プレイヤー

藤原友紀
Yuki Fujiwara

・オーボエ

・コアマメンバ

ホァン・シーイン
Shih-Ying Huang

山田 涼子◇
Ryoko Yamada

・クラリネット

・コアマメンバ

林 まり恵◇
Marie Hayashi

リー・リーリン
Li-Ling Lee

・バスーン

・コアマメンバ

エドアルド・カバルッチ◇
Edoardo Capparrucci

陶山 咲希
Saki Suyama

・エキストラ・プレイヤー

田中裕美子
Yumiko Tanaka

・ホルン

・コアマメンバ

ルーク・ベイカー◇
Luke Baker

イナリ・モイラネン
Inari Moilanen

・スペシャル・プレイヤー

五十畑 勉
Tsumoto Isohata

・エキストラ・プレイヤー

田場 英子
Eiko Taba

・トランペット

・コアマメンバ

河原史弥
Fumiya Kawahara

米本 紋子◇
Ayako Yonemoto

・トロンボーン

・コアマメンバ

パブロ・ティティアイエフ
Pavlo Titiaiev

ジュリアン・ハテガン◇
Julien Hategan

・バス・トロンボーン

・エキストラ・プレイヤー

赤井寛延
Hironobu Akai

・ティンパニ

・コアマメンバ

森山 拓哉
Takuya Moriyama



オーケストラ・キャラバン
～オーケストラと心に響くひとときを～

兵庫芸術文化センター管弦楽団

in 北九州

ベートーヴェン 《運命》

【指揮】ジョン・アクセルロッド
John Axelrod, Conductor

©Stefano Bottesi

【ヴァイオリン】三浦文彰
Fumiaki Miura, Violin

©Yuji Hori



【管弦楽】兵庫芸術文化センター管弦楽団
Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2023. 11/25 土 14:00開演

北九州ソレイユホール

主催：公益社団法人日本オーケストラ連盟
兵庫芸術文化センター管弦楽団 (兵庫県立芸術文化センター)

共催：北九州ソレイユホール
後援：北九州市、九州朝日放送

◎はフォアシューパー ◇はこの公演のトップ

オーケストラ・マネージャー：山内雅豊
パーサネル・マネージャー：前田佳江
ステージ・マネージャー：多戸章人
アシスタント・ステージ・マネージャー：平井穂乃香
ライブラリアン：加藤千香子、内藤安佐子
アシスタント・ライブラリアン：宮ノ原綾音
インスペクター：川岸三哲

※当楽団は、NPO法人イエロー・エンジェル(理事長：宗次徳二氏)より、
コントラバス(Januarus Gagliano1776年製とMatteo Goffriller)を
無償で貸与いただいています。

ゲスト・トップ・プレイヤー及びスペシャル・プレイヤーのご紹介

〈コンサートマスター〉 執行 恒宏 元パシフィックフィルハーモニア東京コンサートマスター
〈ホルン〉 五十畑 勉 東京都交響楽団奏者



助成：



文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan



兵庫県立
芸術文化センター

文化庁文化芸術振興費補助金
(統括団体による文化芸術需要回復・
地域活性化事業(アートキャラバン2))
独立行政法人日本芸術文化振興会

・ **ベートーヴェン：「エグモント」序曲 op.84**

約9分

Ludwig van Beethoven: Egmont Overture, op.84

・ **ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26 ★**

約24分

Max Bruch: Violin Concerto No.1 in G minor, op.26

第1楽章 前奏曲：アレグロ・モデラート Prelude: Allegro moderato

第2楽章 アダージョ Adagio

第3楽章 終曲：アレグロ・エネルジコ Finale: Allegro energico

———— 休憩(20分) Intermission ————

・ **ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 op.67 「運命」**

約31分

Ludwig van Beethoven: Symphony No.5 in C minor, op.67

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ Allegro con brio

第2楽章 アンダンテ・コン・モート Andante con moto

第3楽章 アレグロ Allegro

第4楽章 アレグロ Allegro

指揮： **ジョン・アクセルロッド** John Axelrod, Conductor

ヴァイオリン： **三浦文彰** Fumiaki Miura, Violin (★演奏曲)

管弦楽： **兵庫芸術文化センター管弦楽団** Hyogo Performing Arts Center Orchestra

※演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

ベートーヴェン：「エグモント」序曲 op.84

18世紀末から19世紀初頭にかけて激動の時代を生きたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)。2020年は彼の生誕から150年、2027年は没後200年となるが、彼の残した音楽はその長い年月を経ても、なお私たちに訴えかけて来る。まさに選りすぐられた作品だけに与えられる「クラシック」の名にふさわしい作品ばかりである。

ベートーヴェンは交響曲、協奏曲などに傑作を残したが、それ以外のジャンルでも強く印象に残る作品を書いている。その代表的な作品がこの「エグモント」序曲である。ロマン派時代の偉大な作家、政治家として知られるゲーテの戯曲「エグモント」をウィーンで上演するにあたり、その戯曲のための付随音楽を1809～10年にかけてベートーヴェンは作曲した(交響曲第5番の2年ほど後になる)。当時は演劇作品に音楽を付けて上演するのが普通だった。

その序曲として書かれた音楽は、戯曲の各場面に付けられた音楽の要素をすべて凝縮したような、あるいは作品のテーマそのものに肉薄するようなドラマティックな音楽で、ヘ短調の力強い和音で始まり、ヘ長調で終わる。〈暗から明〉への転換という点でも、交響曲第5番と同じ方向性を持った作品だ。戯曲はスペイン(ハプスブルク家)支配からのオランダの独立運動をテーマにしており、ヒロインとなるクレールヒェンのためにベートーヴェンは歌曲も数曲、書いている。

楽器編成

フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26

ロマン派時代の数多いヴァイオリン協奏曲の中でも、日本での演奏機会が多いのがこのマックス・ブルッフ(1838～1920)の「ヴァイオリン協奏曲第1番」だ。ブルッフはドイツのケルンで生まれ、ベルリンで亡くなった作曲家であり、教育者であった。1891年にはプロイセン芸術アカデミー作曲部長ともなっているから、当時、最も高く評価されていた作曲家だったとも言える。日本人留学生であった山田耕筰の師として、私たちにとってもつながりの深い作曲家である。

ブルッフは交響曲、オペラ、室内楽など多作であったが、21世紀の現在、よく演奏されるのはこの協奏曲を含めた独奏楽器とオーケストラのための協奏的作品群だ。特にチェロとオーケストラのための「コル・ニドライ」、ヴァイオリンでは「スコットランド幻想曲」(1880年)も有名だ。

この「ヴァイオリン協奏曲第1番」はまず1864年から66年にかけて書かれ、初演も行われたが、作曲者自身はそれに満足せず、当時の名匠ヨーゼフ・ヨアヒム(ブラームスの親友としても知られる)に相談し、作品の改訂作業を進めた。そして1868年1月5日(ブルッフの誕生日の1日前)にブレーメンで改訂版の初演が行われた。その後、当時の有名なヴァイオリニストが次々に取り上げる作品となった。

全体は3つの楽章から構成される。第1楽章は「前奏曲」とされ、アレグロ・モデラートのテンポのなかでヴァイオリンが技巧的な面を見せつつ進む。短いこの第1楽章にすぐ続いて第2楽章アダージョが展開される。ここでもヴァイオリンがリードしながら、木管楽器にも美しい主題が登場する。第3楽章はアレグロ・エネルジコ。独奏ヴァイオリンの主題は重音(2本の弦を一緒に弾く)を含む情熱的な主題を奏で、第2主題はロマン派的なスケール感と

叙情性をオーケストラと独奏ヴァイオリンが表現して行く。

楽器編成

独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 op.67 「運命」

神聖ローマ帝国ケルン大司教領のボンで生まれたベートーヴェンがハプスブルク家の支配するオーストリアの首都ウィーンにやって来たのは1792年のことだった。ボン時代にもすでに習作として数多くの作品を書いていた若きベートーヴェンだが、ウィーンでは巨匠ハイドンに師事しつつ、様々な音楽家に学び、ピアニストとしても頭角を現した。ベートーヴェンの大きな夢は交響曲を書くことだったが、その「第1番」は1799～1800年にかけて書かれ、1800年4月にウィーンのブルク劇場で初演された。しかし、すでにこの頃から耳の異常を感じていたベートーヴェンは、その聴覚障害が次第に悪化して行くことを嘆き、「交響曲第2番」を完成させた1802年の10月には有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」(ベートーヴェンの死後発見されたふたりの弟宛の手紙)を書き残している。

その後、ナポレオンに献呈することさえ考えた「交響曲第3番」、そして均整の取れた美しさを持つ「交響曲第4番」を書いた後に、1807～08年にかけて「交響曲第6番」の作曲と並行するように書かれたのが「交響曲第5番」である。初演は1808年12月22日にウィーンで開催されたベートーヴェンの作品ばかりを集めた演奏会において。その時は「交響曲第6番」「合唱幻想曲」「ピアノ協奏曲第4番」などが一緒に初演された。これはとても長いコン

サートだっただろう（4時間以上との記録もあり）。

サブタイトル「運命」の由来は、ベートーヴェンの弟子であり、彼の身の回りの世話もしていたアントン・シンドラーが、この交響曲の最初の4つの音について質問したところ、ベートーヴェンが「このように運命は扉を叩く」と答えたというエピソードから来ているが、シンドラーはベートーヴェンの残した「会話帳」を改ざんしていたことが知られており、そのエピソードの信頼性はかなり薄れている。日本語の「運命」はドイツ語では「Schicksal」となるが、ドイツではこのサブタイトルはほとんど見かけない。

全体は4つの楽章から構成され、ハ短調で始まりハ長調でダイナミックに終わる。第1楽章冒頭の4つの音が全体を支配するモチーフとなり、各楽章の様々な所に顔を出す。第3楽章と第4楽章は続けて演奏される。また、第4楽章にはピッコロ、コントラ・バスーン、トロンボーンという、それまでの交響曲では使われていなかった楽器が登場する。ステージ上をよく注意して観察してみよう。

楽器編成

フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、コントラ・バスーン、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、弦楽5部

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。

※音や警報音の鳴る機器(補聴器、アラーム付時計等)をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意ください。

※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。

※演奏中の会話、客席内での飲食はご遠慮ください。



指揮 ジョン・アクセルロッド John Axelrod, Conductor

ハーヴァード大学を卒業、レナード・バーンスタインとイリヤ・ムーシンに学んだ。現代曲を含む幅広いレパートリー、革新的なプログラミング、そしてそのカリスマ性で世界各国のオーケストラから常に共演を望まれている指揮者のひとりである。これまでルツェルン響・歌劇場音楽監督兼首席指揮者、フランス国立ロワール管音楽監督、王立セビリア響音楽監督、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響首席客演指揮者、京都市交響楽団首席客演指揮者を歴任。現在はブカレスト交響楽団首席指揮者。これまでにバイエルン放送響、ベルリン放送響、ハンブルク北ドイツ放送響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、パリ管弦楽団、ロンドン・フィル、フィルハーモニア管、ローマ・サンタチェチーリア管、トリノRAI国立響、ロイヤル・ストックホルム管、オスロ・フィル、スウェーデン放送響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、さらにワシントン・ナショナル響、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、シカゴ交響楽団、上海交響楽団等、150以上の世界各地のオーケストラを指揮、度々再招聘されている。オペラ指揮者としても意欲的な活動を展開、シェフを務めたルツェルン、ロワールでの数々のプロダクションはもちろん、パリ・シャトレ座、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場での「キャンディード」の成功は特筆に値する。



ヴァイオリン 三浦 文彰 Fumiaki Miura, Violin

2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。これまでロサンゼルス・フィル、ロイヤル・フィル、マリンスキー劇場管、チャイコフスキーシンフォニーオーケストラ、ベルリン・ドイツ響、NDRエルプ・フィル、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ケルン放送響、エーテボリ響などと共演。共演した指揮者にドゥグメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカーマン、ロウヴァリ、ティチアーティ、オロスコ＝エストラダなどが挙げられる。NHK大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことや、TBS「情熱大陸」への出演も大きな話題となった。18年からスタートしたサントリーホールARKクラシックスではアーティスティック・リーダーに就任。21年はバルセロナ響、ウィーン室内管と共演。ピリスとのデュオリサイタルも行う。ロンドンの名門ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスにも就任。CDはエイベックス・クラシックスよりリリース。09年度第20回出光音楽賞受賞。使用楽器は株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1732年製ガールネリ・デル・ジェス「カストン」。

管弦楽 兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra



2005年9月に設立。世界中でオーディションを行い、世界各地から若手演奏家を集め優秀な人材を輩出するアカデミーの要素も持つ、世界でも類を見ない新しいシステムのオーケストラ。芸術監督は佐渡裕が務め、定期演奏会をはじめ、名曲、ファミリー、ポップス等のコンサートや室内楽シリーズ、県内

中学1年生を対象とした「わくわくオーケストラ教室」、毎年夏の芸術監督プロデュース・オペラでの演奏など、多彩な活動を展開している。2006年関西元気文化圏賞ニューパワー賞、2011年神戸新聞平和賞、2017年ミュージック・ベンクラブ賞受賞。通称PAC(バック)オーケストラ。https://hpac-orc.jp